

# 29年10月分 構造用集成材工場の荷動き・価格先行き動向調査1

1. 調査実施期間 平成29年 10月1日～ 29年10月10日

## 2. 調査実施方法

全国の構造用集成材工場に対し、アンケート調査票を送受することにより実施した。  
10月分の回答企業数は4社である。

## 3. 判断指数の算出方法

各調査項目について以下の方法でウェイト・ディフュージョン・インデックスを算出した。

Weight.D.I.(ウェイト・ディフュージョン・インデックス)={「増加」の評価を行った回答の割合}×2+{「やや増加」の評価を行った回答の割合}-{「減少」の評価を行った回答の割合}×2-{「やや減少」の評価を行った回答の割合}÷2  
したがって、この割合がゼロの場合はその増加と減少が等しいことを示し、プラスになるほど増加が多く、逆にマイナスになるほど減少が多いことを示す。

## 4. 調査結果の概要

### (1) ラミナ荷動き動向 Weight. D. I.

品目		29/10月	11月	12月
入荷動向	国産材	25.0	12.5	0.0
	外材	0.0	△ 25.0	0.0
在庫動向	国産材	16.7	0.0	△ 16.7
	外材	△ 25.0	△ 25.0	0.0

・国産材の入荷動向は10月、11月の増加から12月は横ばいに。外材は10月の横ばいから11月は減少、12月は再び横ばいに。

・国産材の在庫動向は10月の増加から11月は横ばい、12月は減少に。外材は10月、11月の減少から12月は横ばいに。

### (2) ラミナ購入価格動向 Weight. D. I.

品目	29/10月	11月	12月
国産材	12.5	0.0	0.0
欧州材	50.0	25.0	0.0
その他	50.0	0.0	0.0

・国産材ラミナの購入価格動向は保合い。

・欧州材、その他(米材)は強含み。

## モニターからのコメント

### (ラミナ荷動き)

・スギ・カラマツはともに横ばいであるが、一部でスギ丸太が若干不足しているとの情報がある。在庫はスギ・カラマツの入荷が安定しているため一定量は確保しているが、冬場になると生産量が落ちる見込みのため、ラミナ在庫も調整する方針。

### (ラミナ価格動向)

・スギについては、乾燥費の問題から若干値上りした。カラマツは現状で横ばいである。

## 29年10月分 構造用集成材工場の荷動き・価格先行き動向調査2

## (3) 構造用集成材荷動き動向 Weight. D. I.

品目		29/10月	11月	12月
生産動向	国産材	12.5	0.0	0.0
	WW集成管柱	0.0	0.0	0.0
	RW集成平角	25.0	0.0	0.0
	米マツ集成平角	0.0	0.0	0.0
	WW集成平角	—	—	—
出荷動向	国産材	0.0	0.0	△ 12.5
	WW集成管柱	0.0	0.0	0.0
	RW集成平角	25.0	0.0	0.0
	米マツ集成平角	0.0	0.0	0.0
	WW集成平角	—	—	—

・国産材及びRW集成平角の生産動向は10月の増加から11月、12月は横ばいに。WW集成管柱、米マツ集成平角とも3カ月連続横ばい推移。

・国産材の出荷動向は10月、11月の横ばいから12月は減少に。WW集成管柱及び米マツ集成平角とも3カ月連続横ばい推移。RW集成平角は10月の増加から11月、12月は横ばいに。

## (4) 構造用集成材出荷価格動向 Weight. D. I.

品目	29/10月	11月	12月
スギ集成管柱	12.5	0.0	0.0
ヒノキ集成柱	0.0	0.0	0.0
ヒノキ集成土台	0.0	0.0	0.0
カラマツ集成土台	0.0	0.0	0.0
WW集成管柱	25.0	0.0	0.0
RW集成平角	50.0	25.0	0.0
米マツ集成平角	0.0	0.0	0.0
WW集成平角	—	—	—
米ヒバ土台角	0.0	0.0	0.0
カラマツ集成平角	0.0	50.0	50.0

・カラマツ集成平角はやや強含み。その他の品目は保合い。

## モニターからのコメント

(構造用集成材の荷動き)

・基本的に毎月フル稼働となっている。12月になると、寒さの影響で生産量はやや減少する見込み。出荷動向は毎月フル生産となっており、生産した商品はほぼ出荷している。公共物件の間合せも増加している。

(構造用集成材の出荷価格動向)

・スギについては若干上昇したが、市場価格がほぼ変動無しのため生産調整をしている。カラマツ土台の価格は横ばいである。カラマツ平角については、接着剤の値上がりもあり上昇傾向となっている。しかし、大きく値上がりする見込みはない。